

人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム「すらら」 インドの進学校で英語版「すらら」のトライアル授業開始

スリランカ、インドネシアに続き、インド市場の開拓を目指して実施

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）は、インド・ムンバイにある小中高一環教育校「Delhi Public School, Nerul, Navi Mumbai（デリー パブリック スクール ナビムンバイ校）」の小学部に、海外版「すらら」である「Surala Ninja!（すらら ニンジャ!）」の英語版を提供し、同校において「すらら」を用いたトライアル授業が7月4日より開始されます。

今回のトライアル授業は、インドの学校における生徒の集中度や熱中度を観察し、インド国内における「Surala Ninja!」の市場可能性を確認すること、また、学校側にとっては、最先端のICTによる個別学習が実際に生徒の学力向上にどのくらい効果があるのか検証することが目的です。学校側が、小学1年生と2年生から様々な学力の生徒計60名を選定し編成した選抜クラスが対象となり、通常の授業時間内に1回35分授業で週3回（月・火・木）行ないます。基礎計算を学ぶプログラムである「Surala Ninja!」を用いて9月末までの3ヶ月間実施します。

※インドの小学1年生は日本より1歳早い満6歳が対象

この学校は、インド国内有数の進学校の系列であるため比較的学力が高い生徒が多いですが、入学の合否判定を学力だけで行なっていないため、従来の集合授業ではクラス内での「学力格差」を埋めるのが難しいという課題がありました。小学2年生のクラスではすでに3桁の足し算を学んでいますが、その内容を容易に理解できている生徒と、1桁のくりあがりの足し算が満足に出来ていない子が同じクラスに存在しているような状況もあります。そのため、個々の学力到達度に合わせた「すらら」の個別学習を実施することで、理解不足の生徒の学力を底上げし、学力格差を是正することがひとつの狙いです。加えて、学力の高い生徒はさらにその能力を伸ばしたいという、現場の先生の声もあります。

また、宿題を課さないという学校の方針により、生徒達はどうしても演習不足になりがちのため、「Surala Ninja!」の学習を通じて短時間で多くの演習問題を効率良く解く経験を積み、正確で、早い計算力を身につけてもらうことが期待されています。

すららネットはJICAの採択事業として、スリランカ・インドネシアの現地の子どもたち向けに、現地の言語に対応させた海外版「すらら」である「Surala Ninja!」を既に提供しています。

スリランカにおいて生徒・保護者から好反応を得て、「Surala Ninja!」を導入した学習塾の校舎数も増加しており、海外の子どもたちへのe-ラーニング教材の提供に確かな手ごたえを感じています。

今回のインドにおける英語版のトライアルの結果を受け、インド市場でも導入校を開拓していきたいと考えています。

すららネットでは、今後も生徒の学力向上に向けた教育サービスの提供に尽力してまいります。



▲先生の研修の様子

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校高学年～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約 33,000 名（2016 年 5 月末現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1 つの単元は 10 から 15 分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

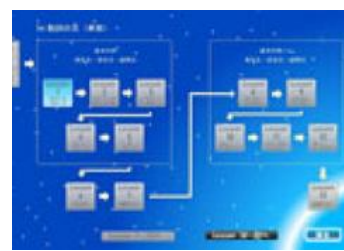
○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでどこまでの学習をするかといった「月 1 回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週 1 回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでの e ラーニング教材の大半は以下の 3 パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でない、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でない、一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。



■「すらら」の“アダプティブ・ラーニング”機能

生徒の解答結果から独自のアルゴリズムにより苦手部分を分析・特定し、生徒それぞれに最適化した学習すべき解説や問題を自動で提示する機能。学習者が苦手分野を自分で克服できるようにする。

■「すらら」における“人工知能”

AI が生徒の学習データに基づき先生の代わりに生徒と対話を行う機能「AI サポーター」を搭載し、生徒のモチベーションに与える効果について慶応義塾大学 中室牧子研究室と共同研究を実施中。

■ 株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008 年 8 月 ○ 資本金：13,795 万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL：http://surala.jp/
- 受賞歴：
 - ・第 9 回日本 e-Learning 大賞 文部科学大臣賞(2012 年)
 - ・Japan Venture Awards 2014 中小機構理事長賞(2014 年)
 - ・第 2 回「日本ベンチャー大賞」社会課題解決賞（審査委員会特別賞）（2016 年）
 - ・第 8 回「千代田ビジネス大賞」大賞(2016 年)